

釧路湿原自然再生協議会再生普及小委員会

第 18 回 湿原学習のための学校支援ワーキンググループ

日時： 令和 6 年 1 月 12 日（金） 14：00～16：00

場所： 釧路市交流プラザさいわい 小ホール

----- 議 事 次 第 -----

1. 開 会
2. 議 事
 - 1) ワーキンググループの取組報告
 - 2) 今後の取り組みについて
3. その他
4. 閉 会

----- 配布資料一覧 -----

○第 18 回湿原学習のための学校支援ワーキンググループ 資料

- ・ 資料 1 ワーキンググループの取組報告
- ・ 資料 2 今後の取り組みについて

出席者名簿（敬称略・順不同）

< 専門家 >

所属等	氏 名
再生普及小委員会委員長	高橋 忠一 ○
北海道教育大学釧路校 教授	境 智洋 ○

< 学校教員 >

所属等	氏 名
釧路市立中央小学校	山本 翔太
釧路市立新陽小学校	柴田 康吉 ○ 大澤 純平
釧路町立別保小学校	田中 有香 ○ 平田 龍一郎 ○
釧路町立富原小学校	齋藤 真貴 ○ 武石 圭司
標茶町立標茶小学校	中村 健一
鶴居村立下幌呂小学校	校長 長谷川 順子 ○
鶴居村立幌呂中学校	長谷 泰昌 ○

< 学校教育行政機関等 >

機 関 名	氏 名
北海道教育庁釧路教育局 教育支援課 社会教育指導班	主査 角田 淳 ○
釧路市教育委員会 学校教育部 教育支援課	指導主事 柴田 題寛 ○
釧路町教育委員会 教育部 指導主事室	室長 國井 彩子
標茶町教育委員会 指導室	指導室長 富樫 慎也 ○
弟子屈町教育委員会 指導室	指導室長 武田 進一 ○
鶴居村教育委員会 管理課 学校教育係	係長 清野 玲子
釧路湿原国立公園連絡協議会	事務局次長 元岡 直子 ○ 事務局員 佐藤 英樹 ○
釧路市こども遊学館	事務局長 小笠原 忍 ○ 学習担当リーダー 古野 峻也 ○

< 事務局 >

機 関 名	氏 名
環境省北海道地方環境事務所 釧路自然環境事務所	自然保護官 境 耕平 ○ 自然保護官補佐 石下 亜衣紗 ○
公益財団法人北海道環境財団	企画事業課長 山本 泰志 ○ 企画事業課 安田 智子 ○

ワーキンググループの取組報告

前回学校支援ワーキンググループ（令和5年7月開催）以降の取組みは以下のとおりです。

○フィールド学習のコーディネイト

以下の学校に対して、釧路湿原を題材としたフィールド学習のコーディネイトを行いました。

・釧路市立中央小学校 5年生

訪問先：温根内木道

実施日：令和5年9月28日

案 内：温根内ビジターセンター藤原指導員

概 要：

（各種調整）講師との調整

（フィールドでの対応）フィールド学習当日の補助



・釧路町立富原小学校 4年生

訪問先：達古武湖、夢が丘遊歩道

実施日：令和5年10月18日

解 説：環境省 石下自然保護官補佐

日本鳥類保護連盟釧路支部 高橋指導員

北海道環境財団 山本・安田

概 要：

（教員への情報提供）フィールドプログラムの提案、教員が担当する解説箇所に関する資料のとりまとめ・提供

（各種調整）各講師との調整・フィールドでの擦り合わせ、施設との調整・教員への取り次ぎ

（フィールドでの対応）フィールドの事前案内、機材・試料等準備、フィールド学習当日の解説



・標茶町立標茶小学校 5年生

訪問先：達古武湖畔、夢が丘遊歩道

実施日：令和5年9月1日

解 説：環境省 境自然保護官、石下自然保護官補佐

釧路市動物園 飯間獣医師

日本鳥類保護連盟釧路支部 高橋指導員

北海道環境財団 山本・安田

概 要：

（教員への情報提供）フィールドプログラムの提案、資料提供

（各種調整）各講師との調整・フィールドでの擦り合わせ、施設との調整・教員への取り次ぎ

（フィールドでの対応）フィールド学習当日の解説



- ・北海道釧路鶴野支援学校 高等部普通科
1年生から3年生

訪問先：温根内ビジターセンター、温根内木道

実施日：令和5年8月23日、10月4日

解説：環境省 石下自然保護官補佐

概要：

（フィールドでの対応）フィールドの事前案内、当日の解説

（情報提供）後日の質疑応答、資料提供



○施設での訪問対応

環境省釧路湿原野生生物保護センターに訪問した以下の学校に対して、解説等を行いました。

- ・釧路町立富原小学校 4年生（77名）

実施日：令和5年8月24日

解説：環境省 境自然保護官、猛禽類医学研究所 獣医師

概要：釧路湿原野生生物保護センターにおける取組み紹介

（4グループに分け、展示室とバックヤードに分けて対応）

- ・釧路市立芦野小学校 6年生（62名）

実施日：令和5年9月25日

解説：環境省 境自然保護官、猛禽類医学研究所 獣医師

概要：釧路湿原野生生物保護センターにおける取組み紹介

（4グループに分け、展示室とバックヤードに分けて対応）

- ・鶴居村立幌呂中学校 3年生

実施日：令和5年10月23日

解説：環境省 中野自然保護官補佐

概要：「湿原での開発と野生動物の共生」について調べ学習をしている生徒1名に対する解説と質疑応答

- ・厚岸翔洋高等学校

実施日：令和5年10月31日

解説：環境省 中野自然保護官補佐

概要：不法投棄された家庭ゴミが野生動物に与える影響について調べ学習をしている生徒2名に対する解説と質疑応答

今後の取組みについて

1. 今年度の取組み予定

○児童への助言

学校からの要望に応じて、専門家と学校とをつなぎ、児童の探求学習の内容や発表に対する助言を行う。

○学外での発表の場づくり（釧路湿原サイエンスフェア）

・企画展示

施設および学校と共同で、研究発表ボードの企画展を開催する。

（各校の学区内で行ってきた企画展については、学校主導での実施可否を調整中）

・口頭発表会

釧路市こども遊学館が開催予定の発表会に対する企画協力を行う。

○学習成果のWEBサイトへの掲載

各児童がとりまとめた内容を以下のWEBサイトに整理する。

kushiro-ee.jp/kenpatu_board/case.html



2. 次年度からの取組みに向けて

○前回ワーキンググループでの主な意見

- ・どのような過程を踏んで学習を進めていくか、学校としてどのように情報を共有し持続可能な形で成立するようにやっていけるかが課題。
- ・どの子にも平等に学習の機会を与えられるか、どの先生でも同じような学習の深まりがある学習を成立させていけるかが課題。
- ・学校と専門家が連携するにあたって、掲示板などで緩いつながりを持ちつつ、本気でやりたい人が集まれるというような、何段階かに分けて行えると良い。
- ・取り組む学校が増えてきた中で、子どもたち同士が発表や交流をしながら、子どもたち同士で深めていけるという実感が持てる場があると良い。
- ・多くのデータを蓄積することで、どのようにすれば良い課題を見つけ、探求していくことができるかということがみえてくる。
- ・教育委員会として、現在取り組んでいる学校が行っている学習の他校への周知、学校と専門家をつなぐ役割を持てると良い。
- ・学校の方でこういう子どもたちを作りたい、そのためにこういう人たちを呼びたいということに学校が主体的に関わりながら進めていく姿を作っていって欲しい。

○湿原学習に係る情報交換会の開催

《概要》

実施日：令和5年11月21日

形式：オンライン会議

参加者：4校から6名の教員

7機関から12名が参加

内容：現在の学習状況、専門家に期待すること（各学校）

協力可能な内容（各機関）

意見交換



《参加教員からの主な意見》

- ・知識だけではなく、子どもたちの立てた方法と違う視点や多様な視点からの助言、探求の過程に対するアドバイスを期待したい。
- ・何を聞いていいかわからない児童も多く、子どもたちの考えが広がっていく機会が欲しい。
- ・インターネットではわからないデータや実物を提供してもらえると、まとめに生かしてることができる。
- ・一つの学校、一人の先生だけでなく、協力機関から提供された写真やデータ、他校の学習プロセスを共有・蓄積し、活用していける仕組みがあるとよい。

《協力機関からの情報提供》

- ・自然再生事業地での解説等が可能。これから復元していく場所もあり、どのように自然が変化していくのかを長期的な視点から学習に活用してもらうことも可能。
- ・森林環境教育を中心に、SDGsの視点から森林についての講話、ネイチャーゲーム、学校周辺木を使った生活との関わりに係る講話、木工クラフト等の対応が可能。
- ・国立公園に関する解説等が可能。
- ・多様な専門家がおり各分野での協力、標本等の貸し出しも可能。
- ・実験を行う際の助言、実験道具の貸し出し、発表の場としての施設の活用等への協力が可能。
- ・資料の情報検索や他図書館からの借用等の協力も可能。
- ・学校に出向き、子どもたちと触れ合いながら探求の進め方を指導することも可能。

○今後の取組み（検討）

- ・カリキュラム作成時からの学校、協力機関との連携にむけた情報交換会について（年度末・年度初め）
- ・ノウハウ共有のための情報の蓄積・活用にむけた共有サイトの試行について
- ・湿原を題材とした探求学習の普及に向けた情報発信について